

滋賀



News

第34号 2018年8月
滋賀グリーン購入ネットワーク
ニュース

滋賀GPNキャラクター エコペン

Shiga GPN
since 1999
滋賀グリーン購入ネットワーク

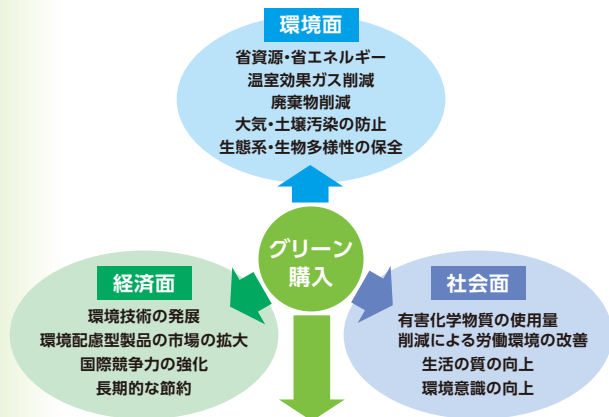
～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

グリーン購入からはじめる SDGs



グリーン購入の意義

※環境省作成資料を元に作成



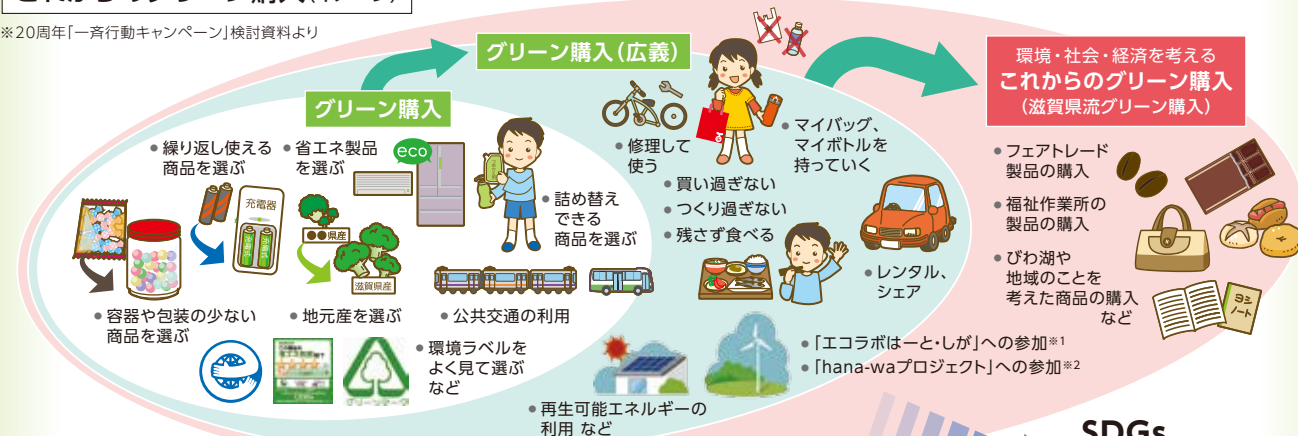
グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、環境面を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ない製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入することです。

国連の持続可能な開発目標（SDGs）の一つに「持続可能な消費と生産のパターンを確保する（ロゴでは「つくる責任つかう責任」と表記）」が盛り込まれたのを受け、国はターゲット12.7（持続可能な公共調達への慣行促進）を実現する施策としてグリーン購入の促進を掲げ、国等の調達率を指標として用いることとしています。持続可能な社会を構築する一手段として、グリーン購入の重要性が再認識されています。

グリーン購入を実践することにより、環境面だけでなく、社会面や経済面の効果も期待できます。滋賀GPNでは2019年に20周年を迎えるにあたり、今一度「グリーン購入」の考え方を整理し、今後の活動内容を検討しているところです。

これからのグリーン購入（イメージ）

※20周年「一斉行動キャンペーン」検討資料より



SDGs
消費者市民社会
持続可能な社会

※1 エコラボはーと・しが：コピー用紙を「通い箱」で障がい福祉サービス作業所が届ける仕組み。コピー用紙を購入することにより、容器包装ごみ削減による環境（エコ）と、障がい者の就労機会を創出する福祉（ハート）の取り組みに参加できる。滋賀 GPN の研究会活動から生まれた取り組み。

※2 hana-wa プロジェクト：プランターをレンタルし、障がい者が草花の植え替え（メンテナンス）を行う仕組み。プランターはペットボトルキャップのリサイクル品で、キャップの回収も障がい福祉サービス作業所が行う。リサイクル活動を見える化する取り組みでもある。

INDEX



- グリーン購入からはじめるSDGs 1
- 20周年に向けて～ただいま企画中!～ 2
- エコ情報室 3
- 農業女子見～つけたっ! ① 3
- Report1 第6回定時会員総会・情報交流会 4

- 滋賀GPN会員でつながりトーク 近畿環境保全株式会社・6
- Report2 カードゲームで知る、学ぶ SDGs・6
- エコトピックス 7
- 新規会員からひとこと 7
- 会員発エコ商品情報 8
- 編集後記 8

20周年に向けて ～ただいま企画中!～

来年20周年を迎える滋賀GPNでは、「20周年事業部会」を立ち上げて、各種の記念事業を企画中です。企画に関わっていただいている皆さんから、20周年に向けての想いをお伺いしました。



旭化成住工株式会社 RC 管理部 環境安全課 担当課長
松宮 秀典

先日の総会後の情報交換会で、今後の活動を考えるグループの進行を担当しました。参加者から、時代の変化に合わせて滋賀から新しいグリーン購入の定義を、との力強い意見をいただき、是非、実現したいと思いました。



滋賀県の強みである「産官学金労の連携」「琵琶湖を守る県民意識」を最大限活用して、「滋賀グリーン購入ネットワーク」20周年事業を盛り上げるため、微力ながら知恵と汗を出していきたいと思います!!

大阪ガス株式会社 滋賀地区副支配人
嶽釜 信一



多くの地域企業の参加や行政との連携という滋賀GPNの強みを活かして、従来のグリーン購入を超えて、新しい時代のグリーン経済に基づいた生活を創り出すことが大切だと考えています。

株式会社沢田商店 代表取締役社長
沢田 昌宏



県内の全ての自治体がその繋がりを活かして「買うならエコリレー」を始めて10年。そして来年、20周年を迎えるにあたり、「全ての自治体をグリーン色に!」を合言葉に新たなウェーブを起こしていきたいと思っています。

草津市 環境経済部 副部長
藤田 雅也



アメリカには【農業+食（料理）+買い物】が結びつくファームが多く、消費者と生産者の関係を深めるトレンドを感じました。日本でも生産者と消費者が信頼関係の中、グリーン購入を勧めることが持続可能な未来への一歩だと思っています。

循環型社会創造研究所えこら 代表
藤田 アニコー



いよいよ20周年ですね。「地球環境を考えた消費行動」を目標にいろんな取り組みを継続的にされてきたことに敬意を表しつつ、益々この活動が広がるよう、ガールスカウトも共に取り組んでいきたいと思っています。

一般社団法人ガールスカウト滋賀県連盟 連盟長
菊池 孝子



2年前にこのサークルに入ってから、滋賀GPNを通じて素晴らしい活動をされている多くの方々にお会いすることができました。20周年、祝福と感謝の気持ちを抱いております。滋賀GPNの一員として、今後も学生ならではの活動を行っていきます。

滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル 代表
朝比奈 遥



グリーン購入は、滋賀らしい“エシカル消費（倫理的な消費）”そのものです。滋賀GPN20周年を機に、日々の消費（買物）がより良い滋賀の未来につながるよう、会員の皆さんと一緒にさらに取り組んでいきたいと思っています。

滋賀県 県民生活部 県民活動生活課 課長補佐
青根 真理子

20周年事業部会 メンバー・アイデア募集中!

20周年事業部会では、参加メンバー・アイデアを募集中です! 詳細は事務局までお問い合わせください。



エコ情報室

農薬・化学肥料を使用しないオーガニック農業への挑戦 ～環境こだわり農業の深化へ～

滋賀県 農政水産部 食のブランド推進課 参事 森野 真



「環境こだわり農業への挑戦～農薬を使わない農業をめざして～」平成13年（2001年）5月、県広報誌プラスワンの1面の見出しです。この時から、琵琶湖の水を守り、また、消費者の皆さんのニーズに応える農産物を提供するために、滋賀県では環境こだわり農業への挑戦を始めました。それから17年。いよいよ今年度から農薬・化学肥料を使わない「オーガニック農業（有機農業）」への挑戦、環境こだわり農業の深化プロジェクトを始めました。

◆農薬・化学肥料5割削減の取組の拡大… 日本一の環境こだわり農業へ

平成13年（2001年）に、化学合成農薬と化学肥料を通常の5割以下に減らすとともに、濁水の流出防止など、びわ湖にやさしい技術で生産された農産物を、県が「環境こだわり農産物」として認証する制度を創設。

平成15年（2003年）に環境こだわり農業推進条例を制定し、翌16年には全国で初めて環境農業直接支払を導入し、生産者の取組を後押し。この直接支払は平成19年に国の制度として採用され、滋賀県は、環境保全型農業直接支払の取組面積は6年連続日本一となっています（耕地面積が全国の約1%の滋賀県が全国の20%を占め、北海道よりも多い!）。

近江米の45%は環境こだわり米となり、県内はもとより京阪神にも広く流通するようになり、県内の農薬の使用量は平成12年（2000年）より4割も減りました。



みずかがみ
(全量が環境こだわり米)

◆いよいよオーガニック農業へ

農薬を5割以下に減らすのと農薬ゼロは、全く異なります。水稻栽培では、5割以下の場合は除草剤を1回は使用します。除草剤は1回使うだけで、雑草をほぼ抑えることができる優れたものです。農薬をゼロにするためには、この除草剤も使用することができないため、雑草対策が一番の課題となります。そこで、最新の乗用型水田除草機の実用試験を県内3カ所で行い、10アールあたり360～420kgの収量を確保できる目処がたってきました。

それでも、通常栽培の収量（480～540kg）と比べると2～3割少なく、除草等のコストが増加するため、通常より2倍程度高く売れないと採算があいません。このため、県、関係団体が連携して、オーガニックエキスポ等に出展するなど、販路開拓の取組を始めしています。

今後も、全国のトップランナーとして、環境こだわり農業の維持・拡大が図れるよう、付加価値向上に向けた取組を強化するとともに、オーガニック農業を拡大し、琵琶湖を抱える滋賀ならではの象徴的な取組として全国に発信することで、環境こだわり農業全体のブランド力向上につなげたいと考えています。そして、いずれはオーガニック米でも日本一となり、オーガニック米と言えば滋賀県と言われるよう、着実に歩みを進めていきたいと思っています。



乗用型水田除草機実演会(東近江市)



農業女子見～つけたっ!①

食まちアグリゲーション
わたなべ ゆい こ
渡辺 維子さん



★いつから、どこで? 2015年に就農し、守山市の70aの畑で少量多品目の野菜を栽培しています。

★農業を始めたきっかけは? 元々は、ライフスタイルの変化がもたらす食事の課題を地元野菜で解決する等、食と農をクロスしたソーシャルビジネスを目指していました。起業準備中に1人の生産者と出会い、野菜の美味しさ、人や環境に優しい栽培方法に衝撃を受け、一緒に農業も始めることにしました。

★頑張っていることは? 健康な野菜を作るために農薬や化学肥料は極力使わず、土壌診断や野菜中の硝酸態イオンの測定等を定期的に行い積極的に県の環境こだわり農産物の認証を受けています。多くの方に地元野菜の美味しさを知ってもらいたくて、週に2回大津「つなぐキッチン※」でお弁当を作り販売しています。

★夢は? 幸せの笑みがこぼれる美味しい野菜を作り続けること。そして食の課題を解決する“まちの台所”（食堂）を作り皆さんを健康で元気にすることです。

※「つなぐキッチン」ラーメンひばり(大津市梅林1-3-25)
にて月・火 7時～14時まで営業(祝日は休み、弁当販売は11時～、1日50食限定)火曜は野菜の販売あり。

Report 1

第6回定時会員総会・ 「持続可能な生産と消費」 情報交換会

～ つくる責任・つかう責任・生みだす未来 ～



●日時：2018年5月29日(火) ●場所：コラボしが21 大会議室（大津市） ●出席者：121名

2017年度事業報告および決算報告についての審議、異動に伴う新理事、新監事の選任を行い、2018年度事業計画、収支予算を確認しました。今後の活動テーマにSDGsを盛り込んでいくこと、20周年に向けて各方面との連携を密にするための検討会等を組織すること、その後の中・長期的な活動ビジョンの検討を始めることなどが決まりました。

総会終了後は情報交換会を開催し、我が国でいち早く「RE100」に参加された株式会社リコーの取り組みを学ぶ講演会と、参加者によるグループディスカッションを実施しました。

なお、情報交換会の最後で撮影したリコーの「誰も撮り残さないSDGsカメラ（通称）」で撮影した360度写真をご希望の出席者様は、事務局までご連絡ください。

講演「再エネ100%を目指すリコーの環境・CSR・SDGsの取り組み」

株式会社リコー サステナビリティ推進本部 社会環境室 CSV 推進グループ 藤野 年喜さん

CSRの世界には重点課題としてマテリアリティという言葉がありますが、リコーでは3Psバランスでマテリアリティを表現しています。Prosperity（持続可能な経済）として「知の創造」「生産性向上」を、Planet（持続可能な地球環境）として「脱炭素社会の実現」「循環型社会の実現」を、People（持続可能な社会）として「生活の質の向上」を目標と捉えて、SDGsの17の目標から3つのPに対応する計8項目選び、重点的に取り組むこととしています。

新たな“環境宣言”では、2050年目標として「バリューチェーン全体の温室効果ガス排出ゼロを目指す」こととしています。これを受けて使用電力を2030年までに少なくとも30%、2050年までに100%を再生可能エネルギーで賄うことを宣言し、

話題の「RE100」への参加を日本企業としては最初に表明しました。参加理由は企業姿勢のPR、エネルギー関連ビジネス展開の後押し、ESG投資や企業評価制度等の評価向上、供給側の変革を促すこと等などです。この宣言により周囲から注目を浴び、やらざるを得なくなるから、その外圧を利用して取り組もうという発想の転換による決意でもあります。生業である製品のさらなる性能の促進、従業員への環境教育、社会貢献活動等をさらに進め、最後はビジネスに結び付ける。社会課題を解決することによって競争力も高めていきたいと考えています。



総会に参加して



普段あまり滋賀GPNの活動に参加できていないのですが、せめて年に1回は会員の皆様から刺激を頂ければと思い、毎年、会員総会には参加させていただいております。地域の顔の見えるマーケットで、グリーン購入が益々盛んになることを期待しています。

コクヨマーケティング㈱ 京滋支店 支店長 高橋 伸年



総会では司会を務めさせていただきました。情報交換会は他社の環境への様々な取り組みを聞いた、有意義な情報交換の場でした。エコ活動は無理して実行しても継続できなければ意味がありません。自分のペースでコツコツと継続していきたいと思っています。

山室木材工業㈱ 福永 直子

グループ・ディスカッション

滋賀GPN会員が一堂に会す総会で実施する、参加者同士の「グループ・ディスカッション」は、毎回好評のプログラムです。今回は滋賀GPN副会長の高橋 卓也 滋賀県立大学環境科学部教授をコーディネーターに、4つのテーマ別グループに分かれてディスカッションし、その結果を全大会で共有しました。

A. 生物多様性と企業の取り組み

進行役を「生物多様性と環境・CSR研究会」が務め、参加希望者が多かったため2グループに分かれてディスカッションしました。森林に関する話が多く出されました。「県産材を活用したくても切り出すコストがどうしても高くなる」「商品に付加価値をつけて高くても売れる工夫が必要」「共感を得られるストーリーを示せると良い」という意見などが出ていました。また、「滋賀GPNでビジネスマッチングの機会をつくれると良い」「今日のような『ワイガヤ』な集まりが何度もあると良い」という意見も出され、つながりの場の重要性を改めて感じた会となりました。



B. 食のグリーン購入

「食のグリーン購入研究会」が進行役を務め、「環境こだわり農業」や「地産地消」「食品ロス削減」が話題になりました。滋賀県は全国に先駆けて環境こだわり農業を始めたわけですが、「全国に広がった今、滋賀はもう一歩先の取り組みを始めてほしい」という意見などが出ていました。食品ロスについては、昔は残さず食べることが当たり前だったが、最近は親が子どもに「残すな」と言わなくなった。小さな頃からの学習が大切だということを、昨年「三方よしエコフェア」で実施した「子どもエコ座談会」での子どもたちの話し合いから実感したという意見などが出ていました。



C. エコ通勤・エコトリップ

進行は「エコ通勤研究会」。自分が持つ通勤のイメージをワークシートで参加者に考えていただいてからディスカッションに入りました。マイカー通勤の削減に取り組む事業所の中には、エコ通勤をねらったのではなく、コスト削減や労働災害を減らすことが目的のところもありました。エコ通勤の推進に有効な手段として、自転車通勤者や会社の近くに住む人に手当を出す、バスや電車の時刻に合わせて定時に業務を終えることを習慣化させる、在宅勤務を進めるなどの意見が出ました。車中心の生活は便利なようで、鉄道やバスを衰退させるという社会の不具合も招いています。車利用が当たり前ではないという意識を持つことの重要性を、参加者で確認しあいました。



D. 滋賀GPN20周年、今後の活動を考える

滋賀GPN会員の従業員数を合計すると10万人を超えます。このスケールメリットを活かして20周年を機に取り組めることについて議論しました。「グリーン購入とは何であるかを改めて分かりやすく示したい」「『これからのグリーン購入』を改めて定義づけしてはどうか」「SDGsのゴールに向けて新ビジョンを作成したい」「2030年には今の子どもたちが大人になる。子どもたちが理解できる言葉でビジョンを示すことが大切」などの意見が出ました。様々な分野の会員がいることが滋賀GPNの強みでもあります。分野ごとに自らの役割を果たせるような活動ができると、面白い広がりになりそうです。



Relay
Talk

滋賀GPN会員でつなぐ

リレートーク>>>

近畿環境保全株式会社

代表取締役社長 西村 忠浩



私たち近畿環境保全株式会社は2017年（平成29年）に創業55周年を迎えることができました。先代の西村裕司が個人商店で廃棄物の回収業務を始めてから、はや半世紀以上が経ちました。その頃は京都の地でごみの回収業務をしていましたが、時代の流れと共に、ごみも一般廃棄物と産業廃棄物となり、また1970年（昭和45年）に廃棄物処理法ができ、法整備が進む中で、生まれ育った地である

滋賀に拠点を戻し、現在の近畿環境保全株式会社がスタートしました。

私は1998年（平成10年）に会社に入社しましたが、その頃は法改正と社会的責任の強化の真っ只中でした。色々苦労はありましたが、なんとかそれまでの会社の信用とスタッフみんなの頑張りにによって、今日があると感じています。私が入社した頃と比べると、社員の人数も増え、また関わりがある企業の数も随分と増えました。ステークホルダーが増えるということはそれだけ社会的責任も重くなりますし、より地域に必要とされる企業であり続けなければ、私たちとこの地域に未来はないのだと考えています。

そんな折に、SDGsを知るきっかけを地元企業の先輩から頂きました。2015年にパリの国連総会にて、全会一致で採択された持続可能な開発目標です。4年前まで私が所属し活動していた青年会議所でも、MDGsの支援はしていました。ですから、すぐに内容は理解できましたし、ローカルな我々のビジネスを、グローバルな視野とものさしではかることができ、また発信することができるいい機会だとも捉えました。55周年のタイミングで、SDGsの理念に賛同し、また自社の新しいビジョンやミッションにも取り入れて、次の60周年に向けて、またその先は100年企業として地域に必要とされる企業となれるよう、今後も活動が続けていく所存です。

次回は株式会社コクヨ工業滋賀さんをお願いします。



近畿環境保全株式会社

〒525-0041 草津市青地町196

TEL : 077-564-1502 FAX : 077-567-3767

E-mail : info@kin-kan.co.jp

Report 2

カードゲームで知る、学ぶ SDGs

カードゲーム「2030 SDGs（ニイゼロサンゼロ エスディーゼズ）」をご存知ですか？SDGsの17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験するゲームです。「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか」、そして「それがあってによってどんな変化や可能性があるのか」を体験的に理解することができます。

滋賀GPNでは、2018年4月13日「グリーン購入実践講座 前期1」で、このカードゲームを実施しました。研修会でカードゲームを取り上げるのは初めての試みでしたが、SDGsを理解されている方にも良く知らない方にも楽しく学んでいただけたようで、会場は非常に盛り上がりしました。

「ゲームを通じて自身の傾向や、世界の影響等、具体的にわかりやすかった」「自分以外の事を考え協力、連携しながら世界を良くする実感が得られた」等アンケートの感想から、参加者が体験型ゲームに満足された様子がうかがえました。



E c o t o p i c s

「ノルウェーの脱炭素事情」

滋賀県立大学 環境科学部 教授 高橋 卓也（滋賀GPN副会長）

先日、ノルウェーの南西部、フィヨルド海岸の都市スタバングルにあるノルウェー石油博物館を見学しました。ノルウェーは北海



ノルウェー石油博物館の外観

油田の採掘によって、世界有数の産油国となっております。「脱炭素」がさけられる現在、どのような展示がされているのでしょうか。

まず、石油とノルウェー経済の結びつきについて注目した一連の展示がありました。石油収入が国家財政の3割にも及ぶなかで、石油収入を積み立てた石油基金（世界最大の政府年金基金）は、その利回りである4%に各年の利用金額を限定していること、また石油基金の投資先は環境問題などが無い「倫理的」な対象とすること、石油収入が国民の幸福につながっているのかといった問いかけ、脱石油時代に向けてノルウェーはどうするのか、などの展示でした。（余談ですが、日本で



トロールA石油プラットフォームの模型(高さは472m)

も株式・債券・東京の不動産5件に約10兆円投資をしています。）石油と環境については、いわゆる環境側と産業側の意見を対比する、といった展示であり、案外、バランスのとれたものだなと感じました。

環境経済学では、ハートウィック・ルールという原則があります。持続可能な資源利用としては、非再生資源からの収益を永続的な資産に投資すべし、というものです。ノルウェーの石油基金の運用は、そのルールにかなっているように思えます。ただ、脱炭素への道筋とその後どうするのかは、まだ見えていないようです。

また、移動途中で見たところでは、木材を大胆に使っているオスロ空港を始めとして、ありとあらゆる建物の外装、内装、道路施設などに木材が使われており印象的でした。

ノルウェーは世界の幸福度ランキングで上位に入る常連国です。北海油田の収入が大きな要因ではあるのですが、その収入をうまく使う知恵、そして木や森といった自然との付き合い方も幸福度を増しているのではないかと感じました。



オスロ空港

新規会員から
ひとこと

2018年2月21日から2018年7月20日までの入会者
(団体名の50音順)



株式会社 日立建機ティエラ

環境・安全グループ グループリーダ 牛谷 健司

「私たち一人ひとりの行動で地球環境の未来を守る」をスローガンに掲げ、湖国でのものづくりを通じて製品・サービスを提供し社会へ貢献していきます。



有限会社 高宮ビジネス

取締役 高宮 裕作

事務機器・OA機器・文具・各種IT商品などの販売事業をしています。環境配慮商品販売へ注力してまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。



マザーレイクにありがとう実行委員会

実行委員長 藤田 知文

「母の日・父の日・びわ湖の日プロジェクト」を通じて、「買う」ことがびわ湖や水源の森をまもることにつながる、自然への「感謝」が伝わる商品の販売促進を行っています。

現会員数：465 団体 [企業 384、行政 21、団体 60] (2018年7月20日現在)



会員発工コ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

琵琶湖 ヨシ腐葉土

公益財団法人 淡海環境保全財団

冬に刈り取った琵琶湖のヨシを原材料として、乾燥鶏糞等を混ぜて作った腐葉土です。通気性、排水性が特に優れていることから草花の根張りが良くなり、根腐れの心配がありません。この特徴から特に菊、朝顔に適しているほか、一般の草花にもお使いいただけます。

培養土の作り方は草花の種類毎に異なっていますし、またお客様によってそれぞれ作り方に秘訣があるようです。なお、腐葉土は一般に肥料分は含んでいないので、肥料は別に与えて下さい。

この腐葉土の収益は、全額小学校のヨシ学習、ヨシ保全事業に使わせていただきます。

●価格：1袋 20リットル 750円
(税込み、平成30年7月20日現在)



〈お問合せ〉公益財団法人 淡海環境保全財団

草津市矢橋町2108 淡海環境プラザ2F
TEL: 077-569-5301
E-mail: info@ohmi.or.jp

滋賀県産間伐材 木製名刺ケース

滋賀県産間伐材有効利用促進グループ

滋賀県産の間伐材で作製した名刺ケースです。名刺が約10枚入り、ケースを下に向けても名刺が落ちないように工夫してあります。

特に薄さにこだわって、改良を重ねて現在の形が完成しました。ユニークな名刺ケースで面談の時にエコな営業マンをアピールできることまちがいなし! 就職祝や記念品にもご活用ください。



※別途費用にてカラープリントも可能で、ロゴマークや写真を印刷したオリジナル名刺ケースもできます。

通販サイト: <https://ecogoods.biz> でお求めいただけます。

●材 質: 滋賀県の間伐材(ヒノキ)

●サイズ: 縦59×横102×厚さ11mm ●価格: 2,500円(税別)

〈お問合せ〉滋賀県産間伐材有効利用促進グループ

木製名刺ケース担当 (つぼ忠)
TEL: 0749-22-3273 FAX: 0749-22-3273
E-mail: tubochu@gmail.com

編集後記

世界の海に流出するプラスチックごみは、年間約800万トン。分解されずに海中に漂う微細な破片「マイクロプラスチック」の問題が深刻化しています。この物質は、海水中の有害物質を吸着させる特徴を持ち、食物連鎖を通じて何倍にも濃縮され、私たちの体内に入り、健康被害を招くと指摘されています。環境省によると、日本周辺海域(東アジア)のマイクロプラスチックは、1km当たり172万個。その密度は世界の海全体の約27倍と驚きの数値です。

一方、琵琶湖でもマイクロプラスチックが発見されています。2016年京都大学の調査では、1㎡当たり0.21～6.51個、琵琶湖のワカサギ31匹のうち9匹の消化器官からこの物質が検出されました。私たちにとても身近な脅威となっていることに驚きました。

その解決策としては、レジ袋やフィルムなどプラスチック製品の使用を減らす「Reduce」、ペットボトルなどを再利用する「Reuse」、そして廃プラスチックを再資源化し使う「Recycle」の「3R」に取り組むことが大切です。

しかし、何よりも、この問題を「自分ごと」として捉え、日々の行動につなげる「使う側の意識改革」が重要と感じた次第です。

(監事/株)滋賀銀行 嶋崎 良伸)

SDGsのカードゲームに何度か参加する機会がありました。環境・社会・経済の三方向から未来社会を思い描く機会を与えてくれるゲームです。どうすれば自分たちが成功(ゴール)に近づくことができ、同時に社会全体がより良くなるのか。ゲームを通して真剣に考えさせられます。自分のビジネスが成功してお金持ちになっても、地球が温暖化して壊滅的になれば意味がありませんから。

ゲームはさておき、SDGsでは2030年までに達成すべき17の目標を掲げています。その達成には、2030年の社会を思い描き、バックキャストイングで自分たちのすべきことを考えていく必要があるでしょう。20周年を迎えるにあたり、この手法も含め「これからのグリーン購入」のあり方について、会員の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

話は変わりますが、猛暑の中、古いプラスチックの洗濯ばさみを物干しに出っぱなしにしていたら、掴むと粉々に砕け散り、慌てて広い集めました。

持続可能な社会を考えた時、例えば2030年には、使い捨てプラ容器やペットボトル飲料を選ぶ人は存在しないのかもしれませんが。どのような容器で提供される飲料を選択するのか、作る側も買う側も真剣に考えるべき時期にきていると感じています。

(滋賀GPN事務局長 辻 博子)



編集・発行／一般社団法人 滋賀グリーン購入ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL: 077-510-3585 FAX: 077-510-3586

Eメール: sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL: <http://www.shigagpn.gr.jp/>

